

令和2年度文化庁「地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」

知ろう！山梨の歴史

山梨の遺跡発掘展 2021

令和3年3月13日（土）～4月11日（日）（3月15・22・29日・4月5日は休館）

開館時間 午前9時～午後5時

山梨県立考古博物館 企画展示室

（入場は午後4時30分まで）

発行 山梨県埋蔵文化財センター

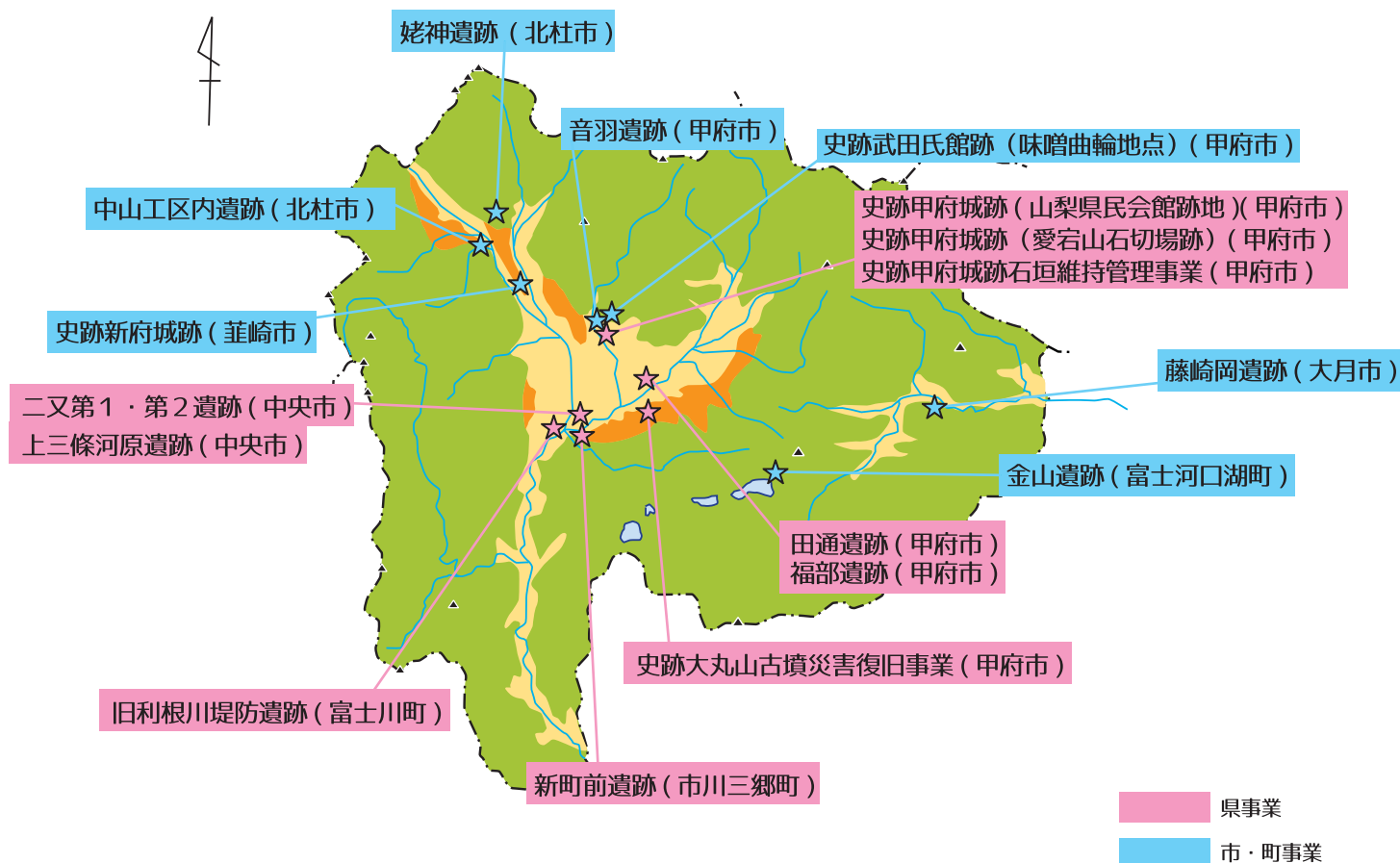
主催：山梨県埋蔵文化財センター 共催：山梨県立考古博物館

協力：甲府市教育委員会、大月市教育委員会、韮崎市教育委員会、北杜市教育委員会、
富士河口湖町教育委員会（順不同）

はじめに

この遺跡発掘展では、令和2年度に山梨県埋蔵文化財センターや各市・町教育委員会などが県内各地で実施した発掘調査成果を展示しています。発掘調査での新しい発見や、迫力ある出土品の数々は必見です。

今回は信玄公生誕500周年を記念して、武田氏に関連する遺跡や遺物についても詳しく紹介しています。今年度の遺跡発掘展をぜひ、お楽しみください。



I 最新情報 埋蔵文化財センター

ふくべ いせき 福部遺跡

福部遺跡は甲府市落合地区の濁川・平等川・笛吹川が合流する付近に位置しています。新山梨環状道路東部区間Ⅱ期建設工事に伴い、発掘調査を実施しました。

地表下約2.8mにある地層からは、中世を中心としたかわらけ、鉄滓（鍛冶行為をした際に出る不純物）、中国製の青磁、白磁などの破片や宋銭などの遺物が出土しました。遺構は、畑跡2か所、炭溜まり1か所のほか土坑やピットなどを確認しました。

調査地点の西側には中世から近世の土豪の拠点とされる遺跡が複数点在しており、福部遺跡はこれらを取り巻く集落の生産遺跡である可能性が考えられます。



畑跡



出土した土師質土器、青磁、古銭、鉄滓

たどおしいせき 田通遺跡

田通遺跡は、濁川と笛吹川が合流する地域にあって、川の氾濫の多い場所です。遺跡の西側には微高地が南北に長く延びていて、現在の落合町はこの微高地上に展開します。

発掘調査は、出水が激しく遺構の確認も難しい調査でしたが、調査の結果、長さ約10mの畦状の高まりの上に12条の畝を検出しました。この畦状の高まりの上では南北方向に畝が作られていて、当時畑として利用されていたと考えられます。時期も中世以降と考えられ、落合町の集落の周辺には「落合おちあい氏屋敷跡」、「小曲氏屋敷跡」、「今井氏屋敷跡」が点在していることから、落合町の地域は中世から村落としての開発が進んでいた地域であったと想像されます。



畑跡



出土遺物

きゅうと ねがわていぼう いせき 旧利根川堤防遺跡

旧利根川堤防遺跡は、富士川町を流れる利根川の左岸に築かれた堤防跡です。中央新幹線建設事業に伴い、発掘調査を実施しました。

発見された堤防は上部が現代の土地改変に伴って消滅していましたが、川底から高さ約1.5mまでが残存しており、厚さ10mの堤防であることが判明しました。

旧利根川の流路に面した法面には石が敷かれ、盛土層との間に裏栗層うらぐりが設けられていました。一方、川裏側の法面には葺石ふきいしがみられませんでした。また、胴木等の地盤補強材や、出し等の付帯施設はみられませんでした。

葺石は勾配が約70度と急角度で、利根川で採取可能な礫岩れきがん、砂岩さがん、花崗閃緑岩かこうせんりょくがん等が用いられていました。



調査地点と利根川



堤防を覆う葺石の一部

かみさんじょうか わら いせき 上三條河原遺跡

上三條河原遺跡は、中央市にあるJR小井川駅の西側に位置する遺跡です。中央新幹線建設事業に伴う試掘調査で新たに発見され、発掘調査を実施しました。

幅7m程度の竪穴建物跡と思われる窪みやその上面から古墳時代終末期の土器が合計1,300点以上出土しました。遺跡が立地する地盤や遺跡を覆う堆積物から、水に浸かりやすい環境であったことが想定されます。このことが竪穴建物の姿をわかりにくくしてしまっていたのかもしれませんが。



竪穴建物跡と想定される窪み



古墳時代のカマド跡

しんまちまえ いせき 新町前遺跡

新町前遺跡は、^{せいしゅうこうこう}県立青洲高校建設に伴う試掘調査で発見された遺跡で、平成30年度以降毎年、発掘調査を実施しています。

これまでの調査で中世の水田や畑の跡、平安時代の集落跡が発見されていますが、令和2年度の調査でも中世の畑跡や平安時代の集落跡が発見されました。地層からは芦川が度々氾濫をおこなっていることがわかります。また、中世より新しい時代でも芦川の氾濫と水田の造営が繰り返されていたようです。



中世の畑跡



平安時代の竪穴建物跡

ふたまただいいち だいに いせき 二又第1・第2遺跡

二又第1・2遺跡は、中央市成島にある中世後半から江戸時代にかけての集落遺跡です。リニア中央新幹線の保守基地建設に伴い発掘調査を実施しています。

遺跡が所在する成島地区は、^{えいしやう}永正十四（1518）年の^{たけだのぶなおほんもの}「武田信直判物」の記述から甲府市の^{いちれんじ}一蓮寺の^{じりやう}寺領であったと考えられています。発掘調査では、16世紀代のカワラケや内耳土器などの遺物とともに掘立柱建物のもと思われる数多くの柱穴が見つかっており、一蓮寺寺領期に併行する時期の村落のようすが明らかになりつつあります

発掘調査は令和3年1月に開始して現在も進行中のため、今後の調査成果が注目されます。



発掘調査中の現場のようす



出土したカワラケと石製品

けんないいせきぶんぶちょうさ 県内遺跡分布調査

山梨県埋蔵文化財センターでは、掘削を伴う開発工事で破壊されてしまう恐れがある遺跡を保護するため、事前に遺跡の有無や工事による影響などを調査する試掘・確認調査をおこなっています。また、工事の範囲が狭い場合には、工事に立ち会って遺構や遺跡の記録をとります。

今年度は、合計49件の試掘・立会調査を実施し、出土した遺物の一部を展示しています。



低湿地における試掘調査の様子



調査の様子

Ⅱ 最新情報 県内の各教育委員会等

うばがみいせき 姥神遺跡（北杜市教育委員会）

遺跡は八ヶ岳南麓のほぼ中央の緩傾斜地に位置します。今回は個人住宅建築に伴い発掘調査をおこないました。

調査地点は、昭和61年調査区の南西側にあたり、埋蔵文化財包蔵地に隣接する造成地でした。包蔵地外でしたが、試掘調査の結果、縄文土器・石器が多数出土し、竪穴住居跡が確認されたので本調査を実施しました。縄文時代中期後半の住居跡が2軒重複して発見され、1号住居跡は大型の石囲炉、埋甕がめが設置されており、炉の奥壁側からほぼ完形の釣手土器つりてどきが伏せられたように出土しました。今回の調査で姥神遺跡の縄文時代集落範囲が広がることが判明しました。



1号住居跡



1号住居跡の釣手土器出土状況

ふじさきおか いせき
藤崎岡遺跡 (大月市教育委員会)

藤崎岡遺跡は、桂川右岸の北東方向へ緩やかに傾斜した河岸段丘上に位置しています。一般県道梁川猿橋線のバイパス新設に伴い、発掘調査が実施されました。

発掘調査によって400㎡の範囲から縄文時代の住居址6軒が確認されました。この密集した住居址は、この段丘上が縄文時代の生活に適していたこと物語っています。また、約8,000年前、富士山の噴火によって流下した猿橋溶岩が遺跡の近くまで流れてきたため、遺跡からは溶岩を利用した石器などが出土しています。

桂川流域は、県下でも縄文時代の遺跡が多いことで知られています。今回の藤崎岡遺跡の調査は、この地域の縄文時代を考えていくうえで貴重な成果となりました。



調査区全景と桂川



5号住居址 (北東から)

かねやまいせき
金山遺跡 (富士河口湖町教育委員会)

金山遺跡は河口湖北岸、御坂山地南麓の丘陵末端から小扇状地にかけて立地し、宿泊施設の建設に先立ち発掘調査をおこないました。

今回の調査では、縄文時代中期と思われる焼土遺構1基。古墳時代と思われる直径30mm前後の土玉^{どだま}65個を収めた埋納遺構1基。平安時代の竪穴建物跡1軒、竪穴建物の一部と思われる焼土遺構1基、土坑2基を確認しました。1号竪穴建物跡からは紡錘車^{ぼうすいしゃ}、大型刀子、刃物など鉄製品が出土し、人頭大の巨礫^{きよれき}が立てられており工房跡と考えられます。また「仁」の文字が両面に書かれた土師器皿^{はじき}などの墨書土器^{ぼくしょどき}が出土しました。古代官道の甲斐路の河口駅の推定地からは距離約1kmと近く、河口駅を支える技術集団の集落と考えられます。



土玉埋納遺構



内外両面に「仁」墨書がある土師器皿 (平安時代)